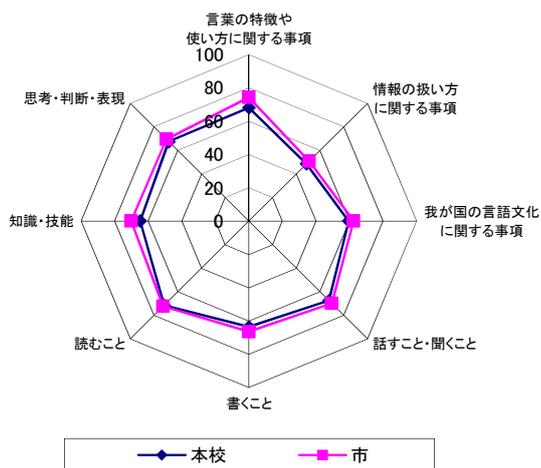


# 宇都宮市立宝木小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.1	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	48.6	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	59.5	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	67.6	69.9	69.7
	書くこと	63.5	66.4	64.6
	読むこと	71.5	72.3	71.0
観点別	知識・技能	64.7	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.5	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○三字熟語の成り立ちを選択する問題の正答率は68.5%であり、市の正答率を1.6ポイント上回っていた。 ●5・6学年に担当されている漢字の読み書きの正答率は、市の平均正答率をすべて下回っていた。	・言葉に関する基本的な知識の習得の向上を目指す。配当漢字の読み書きを反復して練習したり、三字熟語に使われる漢字の意味などについて多くの例を提示して考えたりできるようにする。辞書や情報機器を有効に使うことで、文中や熟語の中での意味や使われ方について、より多くの知識を身に付けられるよう、自ら調べる習慣づけをする。
情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○資料を見比べて、情報と情報の関係を理解し、文章の情報を整理して書く問題の正答率は、市の平均を下回ったものの、全国平均を0.9ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して適当な言葉で答える問題の正答率は73.9%で、市と同等だった。	・複数の資料を分類、整理、比較する課題を取り入れ、情報を扱う技能の定着を目指していきたい。また、グラフの数値や変化の様子など、資料を読み取る際に着目するポイントを示し、多くの問題に取り組む経験を重ねていく。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○無回答者は0%であり、全員が問題の意味をしっかりと考え、正しい回答をしようと問題に臨んでいた。 ●漢字の由来について正しい答えを選択する問題は、市の正答率を2.9ポイント下回っていた。	・新出漢字を学習する際に、その漢字の成り立ちや由来について触れ、興味を高めていきたい。漢字を部首など、部分的に捉えて覚えるとよいことを伝えたり、漢字を使ったゲームや遊びを学習に取り入れたりすることで、少しでも苦手意識を減らし、楽しみながら多くの漢字に触れ合う機会を設けていきたい。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○話し合いの全体的な内容や、話し手の目的を正確に捉えて聞き取ったことを答える問題は、正答率が97.3%であり、多くの児童ができていた。 ●話し合いの内容を聞き取り、互いの立場や意図を明確にしたり、考えを広げるための工夫を捉えたりする問題は、市の正答率を2.9ポイント下回っていた。	・複数の人物の意見を聞き取り、互いの立場や意図に合った発言を考えることができるようにする。話し合いの根底にあるテーマを常に考え、意見が逸脱していないか、テーマに沿った意見であるかどうか判断できるように、普段の友達との交流や学級活動、グループ活動を行う際に指導していく。話の切り返し方や軌道修正をしたい際の言葉の例を提示し、実際に使っていけるように指導していく。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○グラフから読み取った事実を基に、自分の意見を明確に書く問題は61.3%であり、市の正答率とほぼ同じであった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題は、市の平均より5.2ポイント下回っていた。	・原稿用紙の基本的な使い方を指導し、条件に合った構成で文章が書けるよう支援していく。作文や短い意見文を書く活動を意識的に設け、「書く」機会を増やしていきたい。指導の際には、段落構成を意識すること、理由を書くこと、前の段落の逆説を書くこと、といったあらゆる場面を想定し、文と文をつなげる適切な接続詞を使う力を身に付けさせていきたい。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○物語文の文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げる問題の正答率は、70.3%で市より3.8ポイント上回った。 ●説明文の文章全体の構成を捉え、段落ごとの関係を読み取る問題の正答率は、市の平均より2.7ポイント下回っていた。	・物語文の話の流れを理解し、登場人物の言動や心情を読み取る問題に答える力はよく身に付いていた。説明文に取り組む機会を増やし、内容を理解しながら長文を読み取っていく力の向上を目指したい。そのために、教科書やプリント等の問題文を使い、文章を段落ごとに区切り、それぞれの段落が前後の段落とどのような関係になっているのか考えながら読み進められるよう支援していく。